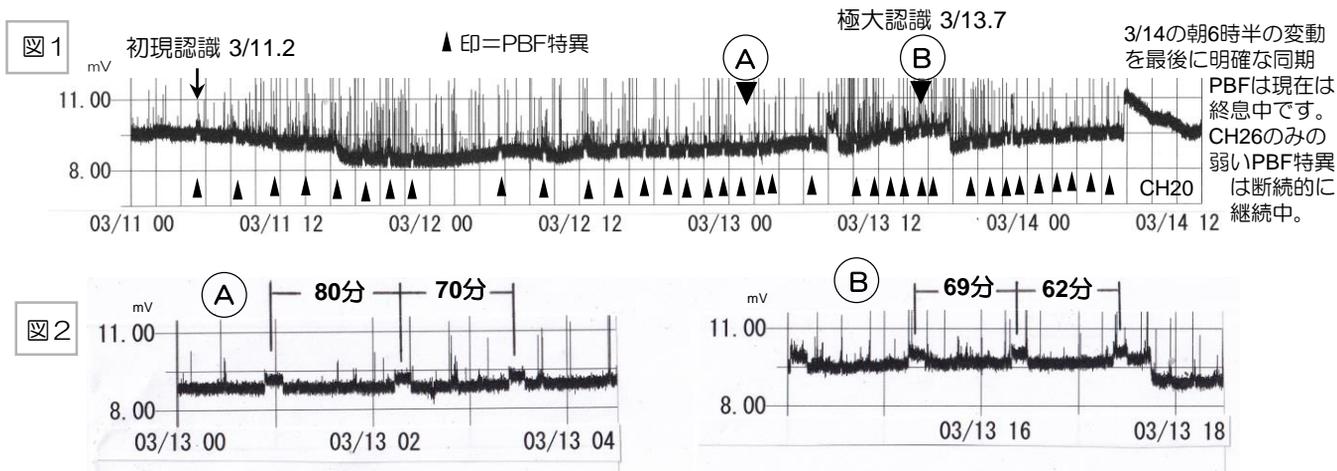


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様へ出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、深海補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりましたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

No1778長期変動 PBF特異 同日より短い間隔で出現 極大を3/13.0→3/13.7に修正 極大修正により→3/18±1（極大が出現しない限り）対応地震発生の可能性有



◆前情報は、3/13の午前09時頃に対応地震発生の可能性が否定困難であったため、この時期より前に続報を配信するため、3/13の午前07時までのデータで作成しました。このため、3/13朝までの間に出現したPBF特異の中で一番周期間隔が短い時間帯で集中出現をしている、3/13.0を極大として発生時期を求めました。しかし、図1及び図2のとおり、同日の夕刻17時の時間帯のPBF特異の方が間隔が短いことが観測されました。従って、極大を3/13.0から3/13.7に修正致します。図2は両時間帯で一番間隔が短い3つの変動の間隔時間を示します。

◆初現～極大の関係で発生日を求めるのは、T_{fap}:T_{map}=20:13 経験則を使用しますが、今回の場合は、初現～極大の間隔が約09時間変わるだけで、求められる発生日は1日変わります。右参照。

初現	極大	推定発生
3/11.2	3/13.0	3/16.3±1
3/11.2	3/13.4	3/17.3±1
3/11.2	3/13.7	3/18.3±1

◆CH20と26の明確な同期PBF特異は、本日3/14の朝06時半の変動を最後に現在終息しています。そのため、今後更に短周期なPBF変動が現れる可能性は低く、前述のとおり、ステージ33の極大は3/13.7と認識されます。従って、3/18±1（T_{map}日数が短い誤差は小さい認識）が示唆され、この時期に次の極大が出現しない限り、対応地震発生の可能性となります。

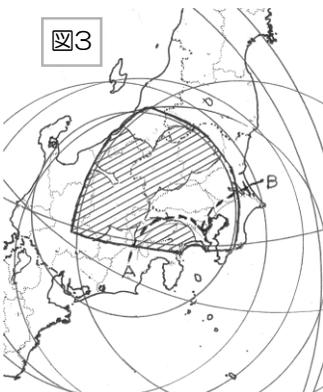
- 推定領域：図3の太線領域内＝大枠推定領域
図3斜線域＝可能性が考えやすい推定領域
震央が火山近傍領域を含む可能性高い

※本日の続報は、ボランティアでHPの更新をして下さっているN氏の仕事の関係で、更新が夜となりました。

- 推定規模：主震 M8.0±0.3 または
複合の場合＝M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で約110～150km程度となる様な複合地震活動の可能性（群発的な活動の可能性も有）
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい

- 推定時期：3月18日±1 の可能性（最大誤差：±2日）
※上記時期に極大が出現しない場合に限る。極大出現等の場合は上記否定、続報予定

- 推定地震：震源浅い陸域地殻地震
- 推定発生時刻：午前09時±2 午後06時±3（午前09時±2の可能性若干高い）
※30年の観測で初めて体験する長期継続変動のため推定が間違っている可能性も否定困難



A～B弧線以南の可能性は極めて低い

※仮に推定に近い活動が生じた場合でも被害が少ないことを祈ります。